



発行所  
長野県下伊那郡高森町  
下市田 高森町公民館

発行人  
大洞 利雄  
☎89-3200 ☎35-8211

印刷所  
龍共印刷株式会社



### 高森町成人式

2013. 1. 3

### レポート



今、私は地元の高森町に通っています。今年の3月に卒業し、4月から社会人になります。今までと違い、い

ろんな年齢の人達と職場で働きます。初めてやる事ばかりで不安がいつぱいですが、早く仕事を覚えて先輩方のように働けるようになりたいです。

今まで続けてきたアルバイトでの経験も生かし、基本的な事をきちんとやりたいです。これから社会人として常識ある大人になるために頑張りたいと思います。  
多田麻美(吉田)

### 成人式を迎えて



中塚 悠貴(下市田)

平成25年1月3日、私たちは成人式を迎え、中学卒業以来ほとんど会うことなかった友達や恩師と再会することができました。5年ぶりの再会に、当時の思い出を懐かしみました。また、お互いの成長を喜び、近況を知ること驚き合いました。

成人になるということは10代までとは異なり、行動の一つ一つに責任を持たなければならなりません。私たちは中学生の頃と比べると落ち着いた行動を取るようになり、大人へと着実に成長していると、この度の式に出席して実感しました。



式には柿丸くんも登場



謝辞を述べる坂元雄太郎さん

見える周りの景色はほとんどかわっておらず、以前の教室の位置などを思い出して校舎をみてまわっていると3年間の懐かしい思い出が蘇りました。

### 年頭所感



公民館長 大洞利雄

高森町の皆様、あけましておめでとうございます。皆様方には輝かしい新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。とともに、日頃の公民館の活動に対するご協力、ご支援に深く感謝いたしております。

さて、全国的に公民館の必要性や重要性が見直されている中、昨年、各支館・分館におかれましては人

地域・つながりを大切にしたい活動が実施され、多くの方々に喜んでいただいております。今まで行っていた実践から脱皮し、一味加えた活動へと再生させた役員・部員の皆様のお骨折りの賜物と感謝いたしております。

公民館では教室、講座、大学等へ多くの方々に参加していただき、そこで得た

ものに参加された方が地域社会へ還元させる点に重きをおいた活動を実践してまいりました。より積極的に参加していた、たくたの名称の変更(シニア大学・柿の里ひろば)や小学生との交流活動の実践等が一例ですが、今後も、様々な活動を通して明確な成果が出るまで継続していく所存です。

結びとなりますが、本年が皆様方にとりまして幸多い年となりますことを心よりお祈りいたしました。年頭の挨拶とさせていただきます。また、「思い」は変わらず伝えていきたいものだ。

### 三面鏡

今年も、各地域での「ほんやり」の様子を、テレビのニュースや町のケーブルテレビでも伝えていた。地域によつては「どんど

焼き」と呼び名も多少変わるようだが、昔からの地域での恒例行事であることには変わりがない。地区によつてお餅の焼き方に工夫がされているのも面白いものだと感じた。

数十年前の私の小学生時代には、前日から会所に集まり、持ち寄った広告の紙や包装紙で飾りを作り、門松は各戸に歩いて集めに行った。また、当日の朝は誰よりも早く集まり、地区全体を「ほんやりほーほー」の掛け声とともに呼びに回ったものだ。

ほんやりが終わると、中心の本柱が地域の方々に競りにかけられ、子どもたちで買っていたいたいた家庭まで縄で引つ張って運び、購入いただいたお金でその後、子どもたちでお菓子を買い、お楽しみ会をしたものだ。

2日間、ほんやり行事で大忙しだったのを覚えている。また、それが冬休みの楽しみのひとつでもあった。

今は子どもの数や、大人たちの都合などもあり、やり方や時間など変わってきている。

やはり時代は時代が即していったとしても、地域の人たちが集まり、お餅を焼き、今年も無事に1年を過ごすことが出来るように祈る気持ちに変わりはない。

# 高森中改築レポート⑨

## 柿色の新校舎完成

待望の新校舎が完成し、12月15日と、一般開放が行われた。特別教室は、例えば、ART(美術室)、COOKING(調理室)のように、教室名が英語でコンクリート柱に標示されており、シャッとした雰囲気の中庭は、まるで大学のキャンパスのようだ。

また、普通教室の前の廊下は幅が広く、ワークスペースとして様々な活動や交流ができるようになっている。



柿色の校舎と中庭



コンクリート柱に標示された教室名

新校舎で最も特徴的な空間といわれるピロティ(地下広場)は、校庭と中庭をつなげている。ここは、雨天時の部活の練習スペースになったり、文化祭やクラスマッチなどで、半屋外的な使い方ができるというところだ。災害時の避難拠点としてのスペースでもあるようだ。

生徒は3学期から新校舎を利用している。恵まれた環境の下で、中学生生活を、さらに充実させてくれることを期待したい。

## 下4分館

# 1年のスタートを地域のみんなと 第22回元日マラソン・ウォーキング

1月1日、下市田4区漸進会主催にて、「元旦マラソン・ウォーキング」が行われました。この日は天候に恵まれ、小さな子どもたちから高齢の方まで年齢も幅広い参加者たちが、午前9時から次々に集合し、全員で準備体操をしました。10時に4区生活改善センターを出発し、まず皆で萩山神社に参拝しました。そこから来られた人もいました。第1位でゴールした橋都敬くん(中3)は「毎年参加して楽しんでいます。笑顔で答えてくれました。」



はりきって走り出す子ども達

## 地球温暖化防止活動 65

# 作ってみよう ロケットストーブ

昨年からよく報道されているエネルギー革命、新年早々テレビでも新聞でも大きく取り上げられていましたね。アメリカでは地下数キロの岩盤を砕いて天然ガスやオイルを取り出し、埋蔵量が100年以上とも言われ、燃料の供給ルートが大きく変わろうとしています。しかし、使われる薬剤により地下水の汚染や水道に含まれたガスが燃えたり、地震を誘発させたりなど問題も多く、規制が急がれています。地下深くに封印されたものに手をつけることの恐ろしさを、いずれ人類が体験することになるのではな

く加ってください。昨年からは梅雨時のような感じがしましたが、買物をしたり海で遊んだり、観光地を回っているのを見たりしました。牧場では乗馬もしました。お二人は山よりも海が好きだそうです。一緒に海で釣ることもありますが、日頃忙しく働いておられるのでのんびりとした時間も必要なのでしょう。当分二人だけの生活を楽しまないと、今はアパートで暮らしていますが、いずれは家に入ると寛文さん。まどかさんは、これからはもっと仕事を続けていくつもりです。精神的にも気を抜けない大変なお仕事だと思えますが、若い二人をへトへトになるまで走り回らせないよう、大事故や災害の起きない平穏な世であることを願います。

## 論説

昨年12月に完成した新しい中学校の校舎を見せたい。清々しい木の香りを感じ、広いガラス窓から青い空を仰ぎ、最新の設備が備えられた校舎内を高揚した気分で見歩いて。

## 「よのなか」を学ぶ

痴だから上手になるコツを教えてほしかった。数学はまあ日常生活困らない程度で十分、と自分の努力は棚に上げ頭に浮かぶ。でも一番学び直したいのは社会科。地理で世界の

長に転身した藤原和博さんは、社会を生き生きと教える「よのなか」科を提案した。自分自身の身の回りから社会の仕組み、経済や政治、環境や自分の未来と生き方を考えてみようという

あの頃は、と時間を悔いていられない。どうだろう。社会に出ていく初々しい20歳、これから社会を支える20歳の君に成人式の日の「よのなか」科の開講をお勧めしたい。学ぶ機会は限られていて、手にした一票を握りしめ、「よのなか」を学ぶのも悪くない。

授業を作った。たとえば、ハンバーガー店の出店を考える。企画から、立地や価格の設定。材料がどこからくるのか。店長の仕事。会社の仕組み。自分を中心に、どんな世界が広がっていくか。あるいは給料明細を

授業を作った。たとえば、ハンバーガー店の出店を考える。企画から、立地や価格の設定。材料がどこからくるのか。店長の仕事。会社の仕組み。自分を中心に、どんな世界が広がっていくか。あるいは給料明細を

## 結婚さん今日は



寛文さん(26才)とまどかさん(28才)

寛文さん(26才)は、救命士の仕事をされています。まどかさん(28才)は看護師で、同じ職場で働くなかで親しくなりました。寛文さんがまどかさんと出会った最初の印象は、「明るくて目が大きくかわいい」。まどかさんは、「やさしくて気が合いそう」と思ったそうです。実際はドライブをしたり、沖縄や伊勢神宮などあちこち旅行にも行きました。沖縄ではダイビングなども楽しんだそうです。

寛文さん(26才)は、救命士の仕事をされています。まどかさん(28才)は看護師で、同じ職場で働くなかで親しくなりました。寛文さんがまどかさんと出会った最初の印象は、「明るくて目が大きくかわいい」。まどかさんは、「やさしくて気が合いそう」と思ったそうです。実際はドライブをしたり、沖縄や伊勢神宮などあちこち旅行にも行きました。沖縄ではダイビングなども楽しんだそうです。

寛文さん(26才)は、救命士の仕事をされています。まどかさん(28才)は看護師で、同じ職場で働くなかで親しくなりました。寛文さんがまどかさんと出会った最初の印象は、「明るくて目が大きくかわいい」。まどかさんは、「やさしくて気が合いそう」と思ったそうです。実際はドライブをしたり、沖縄や伊勢神宮などあちこち旅行にも行きました。沖縄ではダイビングなども楽しんだそうです。

寛文さん(26才)は、救命士の仕事をされています。まどかさん(28才)は看護師で、同じ職場で働くなかで親しくなりました。寛文さんがまどかさんと出会った最初の印象は、「明るくて目が大きくかわいい」。まどかさんは、「やさしくて気が合いそう」と思ったそうです。実際はドライブをしたり、沖縄や伊勢神宮などあちこち旅行にも行きました。沖縄ではダイビングなども楽しんだそうです。